

第190号 発行日 平成24年11月1日

合格通信

今
月
の
名
言

学問なんて、覚えると同時に忘れてしまってもいいものなんだ。けれども、全部忘れてしまっても、その勉強の訓練の底に一つかみの砂金が残っているものだ。これだ。これが貴いのだ。勉強しなければいかん。

-太宰 治-

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせいただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。

子どものタイプ別対処法⑧

保護者面談をしているとよく「何でうちの子はやる気を出してくれないのだろう」そう言うってくる親はとても多いのです。けれども子どもはひとりひとり性格が違いますし、これまで育ってきた環境も違います。やる気が出せない理由は様々です。なかなか勉強に入っていない子どもたちには、どのような悩みがあり、どんな問題があるのでしょうか。



「やっても分からないし、なかなか成績が上がらないからやる気が起きない」

こういつてくる子は、基礎学力がないため、今の教科書内容では理解できなくなっている生徒に多いのです。英語、数学のような積み上げ教科は1年内容をきちんと習得しておかないと、2年内容が分からないのは当然です。まず分からなくなったところから戻っての学習が必要になります。英語なら、1年の教科書を読み、訳せるかどうかってみましょう。訳せないときは、まず単語の意味が分からないわけですから、単語帳やカードに記録して、勉強の合間などにでも繰り返し、見て、書き、声を出して読むなどして五感を多く使って覚えましょう。**教科書に出てきた単語はすべて覚えておく必要があるのです。**そして**文法は用法を理解し、疑問文、否定文にできるかやってみましょう。**それには**文法ごとに編集してある問題集が必要**ですし、**参考書も必要**になります。そして**わからない単語はこまめに辞書を引き、どんな用法があるのかなど、例文を読んでいくと、英語の力はかなりついてくるようになります。**英語は暗記モノに近いものでもあり、「習うより慣れろ」と言われるように、ふだんからどれだけ英文に接しているかが重要です。1年からの教科書本文を覚えるまで何度も繰り返し読んでいきましょう。

なぜテストで点数が取れないか、自己分析してみてください。英語なら単語の意味が分からないなら、覚えていくしかないですし、数学ならたとえば一次関数で傾きの求め方が分からなければ、1年の「比例・反比例」に戻って勉強し、何故これがこうなるのかきちんと自分の頭で理解しない以上いつまでも分かるようになりません。学校や塾で習うことは受け身の学習です。自分から能動的にわからないところを参考書の説明を読んでじっくり考える、といった、積極的姿勢がなければ勉強で大きな成果を上げることはできないのです。

～次回に続く